

令和7年度 重点目標達成のためのアクションプラン

氷見市立十二町小学校

<本年度の重点目標>

なりたい自分を目指し、自ら考え、行動する子供の育成

	アクションプラン 1	アクションプラン 2
重点課題	確かな学力の育成 (進んで学び、表現する子供)	豊かな心の育成 (温かく、思いやる子供)
前年度の課題	- 年間を通して「対話タイム」を継続したことによって、話を聞く意識や態度を向上させるとともに、友達に思いや考えを伝えようと声の大きさや速さに気を付けながら話すことができたことと捉えている子供が多くいた。一方、理由等を踏まえて詳しく話したり、相手に質問したりすることができたことと捉えている子供は少なかったため、「話型を有効に活用する」「話す前に考えを整理する」等、指導を行った。子供たちの表現力をさらに高めるための手立てを考えていきたい。 - 年間を通して「ほかほかあいさつの木」を掲示し、子供たちが自分の挨拶や友達の挨拶の仕方について振り返り、カードを貼っていった。友達のよいところを見付け、メッセージを送り合ったことで、自分も気持ちのよい挨拶をしようと意欲を高めることができた。一方、挨拶が大切な理由をあまり考えていなかったり、挨拶することを恥ずかしがったりする子供もあり、進んで挨拶する習慣を付けていく必要がある。	
具体的な達成目標 (数値目標)	友達の話をよく聞き、自分の思いや考えを分かりやすく話すことができる。 (80%以上) (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B・C・D評価)	相手の気持ちを考えた言葉がけや行動をすることができる。 (80%以上) (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B・C・D評価)
行動Ⅰ (方策)	<方策1> - 友達の話を聞く態度を向上できるよう、「聞き方表」を教室に掲示し、対話タイムや授業でのペア・グループ学習で活用するとともに自分の態度を振り返る機会を確保する。 <方策2> - 思いや考えを分かりやすく伝えられるよう、発達段階に応じた「話型」を掲示し、その言葉を生かして話す機会を確保する。	<方策1> - 子供たちが主体となって挨拶運動を進めることができるよう、代表委員会が方策を考え、継続して実践・振り返りを行う。 <方策2> - 相手の気持ちを考えた行動や言葉遣いができるよう、互いに認め合う機会を日常的に設定する。また、「ほかほかの木」の掲示や「ほかほか週間」を設定し、実践意欲を高める。
中間評価	<方策1> B	<方策2> C
	- 対話タイムでは、学校行事、自分の挨拶、友達との関わり方、思い出等について主に学級で話し合った。子供へのアンケート①「相手を見て、いい姿勢で話を聞くことができたか」②「うなずきながら、笑顔で、終わりまで話を聞くことができたか」はどちらもA B評価は80%以上であった。教員へのアンケートでは、「聞く姿勢には課題がある」「話すことより聞くことへの指導が必要」と感じている教員が複数いた。聞く態度を向上できるよう、対話タイムを実施する際、「聞き方表」の中から重点を決め、子供たちが自己評価を行うことを継続する。 - 学年の発達段階に応じた内容を検討し、「話型」を各教室に掲示した。子供へのアンケート③「全員に聞こえる声の大きさ、速さで話すことができたか」のA B評価は80%を超え	
	<方策1> A	<方策2> B
	「大きな声で、はっきりと挨拶することができた」と答えた児童は、A B評価が90%で、その内A評価が74%と高く、代表委員会が重点目標を決めて挨拶週間に取り組んだことで、挨拶に対する意識が高まったと考える。放送で、挨拶名人を紹介したり、学年ごとに挨拶運動に参加したりしたことも効果的であった。しかし、「にっこり笑顔で、相手を見て挨拶することができた」と答えた児童は、A B評価が90%、「気持ちを込めて、自分から積極的に挨拶することができた」と答えた児童は、A B評価が84%と高いが、A評価の児童はいずれも40%台と低く、相手を意識した気持ちのよい挨拶ができているとはいえない。また、保護者アンケートの結果、「お子さんは家で挨拶をしていますか」「地域のの人に挨拶をしていますか」では、A B評価は90%前後と高いが、A評価は、41%、33%と低い傾向にあった。今後も、挨拶の質の向上を	

	えていた。⑥「まず、そして、はじめに、次になどを使って詳しく話すことができたか」 ⑦「授業や対話タイムでいつ、どこで、だれが、どちらが、なぜなどを使って質問できたか」はA B評価が80%を下回った。思いや考えを分かりやすく伝えられるよう、対話タイムを実施する際、「話型」の中から重点を決め、子供たちが自己評価を行うことを継続する。また、順序を意識して話したり、互いに質問し合ったりすることができるようなテーマを工夫しながら対話タイムを実施する。	目指し、実態に合わせて重点目標を設定した挨拶運動を継続的に行う。自己評価・相互評価を取り入れた振り返りの場も工夫していきたい。 ・「友達の気持ちを考えて言葉をかけたり、行動したりすることができたか」と答えた児童は、A B評価が88%であるが、そのうちA評価が31%と低かった。「十二町っ子ほかほかの木」を各クラスに設置し、挨拶に対する自分の頑張りや友達の頑張り进行掲示した。今後は、挨拶だけでなく、自他の頑張りやよさ、相手の気持ちを考えた言動ができている友達へのカードを書いて継続的に掲示し、自他のよさを認め合う場を意図的に設定していきたい。
中間評価公表	ホームページ・学校だより	
行動Ⅱ (方策)	<方策1> ・友達の話を聞く態度を向上できるよう、「聞き方表」の中から重点を決め、具体的な行動目標を設定するとともに、ワークシートを活用し、自分自身の聞き方を振り返るようにする。 <方策2> ・思いや考えを分かりやすく伝えられるよう、友達につなげて話す、順序を工夫して話すなど、「話型」の中から重点を決め、具体的な行動目標を設定するとともに、ワークシートを活用し、自分自身の話し方を振り返るようにする。	<方策1> ・子供たちが主体となって、気持ちのよい挨拶ができるよう、6年生や代表委員を中心に、挨拶に関する現状や課題を踏まえて方策を話し合い、実態に応じた目標設定を行いながら、挨拶運動を行う。 ・放送での挨拶名人の紹介 ・縦割り班や異学年での挨拶運動 ・挨拶週間の振り返り（相互評価・自己評価） <方策2> ・相手の気持ちを考えた行動や言葉遣いができるよう、帰りの会や学活等において、互いに認め合う機会を日常的に設定する。 ・挨拶や相手の気持ちを考えた言動等、よいところをカードに書いて「十二町っ子ほかほかの木」に掲示することによって、互いを認め、大切にしようとする気持ちを高める。

【評価基準】

- ・「方策」 A…目標達成に効果があった B…目標達成にやや効果があった
C…目標達成にあまり効果がなかった D…目標達成に効果がなかった
- ・「総合評価」 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった